



Kyoto Seika University was founded in 1968. It started out with high ideals that broke the mold of old Japanese universities. Kyoto Seika University is the place where teachers, students and all others are respected as human beings, and where the spirit of freedom and autonomy prevails. Although it is a small university, it is known for producing graduates who are unique and independent. From now on, in order to improve and develop this university, we



will continue to believe in these ideals. Kyoto Seika University consists of two faculties: Humanities and Art. The Faculty of Humanities uses educational philosophy of experiential, intercultural, and interdisciplinary approach to study broadly various peoples and cultures. The main purpose is to gain a deep understanding of living people's societies and cultures as a whole. The faculty of Art not only teaches skills and techniques but also cultivates insight



into Humanity. While considering the basic question of what is Art to humans, we search for true art expression. Kino Press is a newsletter published by Kyoto Seika University and distributed to students, faculty, administrators, graduates and other members of the university community. This publication is intended to keep readers informed of all aspects of K.S.U.'s development, including on-campus events, personnel changes and student news.



KINO PRESS
KYOTO SEIKA UNIVERSITY
NO.32

木野通信 第32号 1999年12月25日発行
京都精華大学情報館文化情報課
〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137
TEL 075-702-5343

環境社会学科・マンガ学科

2000年4月スタート正式認可

いよいよ環境社会学科(人文学部)・マンガ学科(芸術学部)のふたつの新学科に正式に認可が下りた。2000年4月からのスタートが決定。両学科とも日本で初めての試みということで広く注目を集めている。学科の概要、新任教員、入試概要を特集でお送りする。さあ今、京都精華大学が新しい時代に向けて走り出す。

人文学部 環境社会学科

環境問題とそれを引き起こす人間。環境社会学科は人間社会にまなざしをむける。問題の解決へ向けて新たな知の枠組みを創出し、提案し得る実践の学問を環境社会学科はめざす。

人間を考え、環境にアプローチ

人間に目を向ける

環境社会学科は既存の学問の枠に収まらない新しい学科。環境問題の文化的・社会的全体像を理解し、解決への方法論を実践的に学ぶ。環境問題の物理的側面よりも、それをつくりだした人間活動・人間社会に焦点をあて、そのあり方をラジカルに問い直し、提案をおこなう。文化人類学、民俗学、あるいは社会学、心理学の枠組みを大いに駆使する一方で、人間以外の自然環境との関わりを常に視野にいれることをめざす。さらに、問題を解決するための実践をおこなうことが重要である。現実社会を分析し、提示するための社会政策論や国際関係論、自然環境と親しむ活動やライフスタイルの実践も欠くことができない。

自然とのつながりを取りもどす

わたしたちの生活は豊かさを手に入れた。しかし自然環境は許容限界を超えてしまったように思われる。その代償は資源枯渇や環境汚染という物理的側面だけではない。わたしたちの日常は自然環境と切り離されて過ごしている。その結果として自然環境への強い憧れを抱き、元凶である近代以降の人間社会への批判や疑いが表明される。環境社会学科は、自然環境とのつながりを取りもどす試みを提案し、実践する場である。我々が自然環境から遠ざかるのではなく、深く知り、それと親しむなら、環境問題への技術的な対応とあわせて、未来は開かれるだろう。環境社会学科では、新しい共生の文化をめざす。

フィールドワークで現実と向き合う

環境社会学科でおこなわれる教育や研究の方法も、また新しいものとなる。これまでの大学教育では少なかった野外あるいは現場での調査研究を重視している。現実には起きていなくてごまかすにぶつかり、格闘することで、新たな生き方の構築をめざす。人に働きかけて社会を動かす問題の解決を図ることが、環境社会学科の考え方である。とくに3年次後期に設定されている「調査演習」では、学生は半年ちかい期間を費やし、フィールドワークをおこなうことが求められる。そこでは必ず現地あるいは現場に足を運ばなければならない。そこにある新しい地平は、一人ひとりのフィールドワーカーにとっては代えがたいものとなる。

カリキュラム

卒業には124単位が必要で、内訳は教養科目34単位、専門科目68単位、自由選択科目22単位。

1年次は導入として環境問題の基本知識を学習する。2年次は、データ情報の処理のために統計学などを演習し、後期からコースに対応した科目を中心に履修する。3年次にはそれぞれのコースについて深める一方、学際的な領域も視野に入れる。後期は「調査演習」やインターンシップ科目などにより現場で体験的に学ぶ。そして最終年次には個々の着眼点を学際的な視点から捉え直し「卒業論文」としてまとめることをめざす。

●専門教育科目
環境社会基礎Ⅰ・Ⅱ／社会統計学Ⅰ・Ⅱ／環境情報処理Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

●総合科目
環境思想概論Ⅰ・Ⅱ／環境アセスメント概論Ⅰ・Ⅱ／環境社会学Ⅰ・Ⅱ／環境と国際関係Ⅰ・Ⅱ／環境経済学Ⅰ・Ⅱ／民族と環境／南北問題Ⅰ・Ⅱ／風土と民族Ⅰ・Ⅱ／地理学Ⅰ・Ⅱ／公害史Ⅰ・Ⅱ／科学史Ⅰ・Ⅱ／生態学史Ⅰ・Ⅱ／自然景観論Ⅰ・Ⅱ／化学物質と環境Ⅰ・Ⅱ／ジャーナリズムと環境／自然誌／環境法規／京都の景観／環境倫理学／総合環境演習

●専門共通科目
調査演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ／環境実務研修／卒業論文

●環境社会科目
環境政策論Ⅰ・Ⅱ／環境NGO論Ⅰ・Ⅱ／地域計画論Ⅰ・Ⅱ／環境NGO演習Ⅰ・Ⅱ／地域計画演習Ⅰ・Ⅱ

●環境マネジメント科目
環境マネジメントⅠ・Ⅱ／環境監査Ⅰ・Ⅱ／製品環境評価／環境家計簿／環境マネジメント演習Ⅰ・Ⅱ／環境監査演習Ⅰ・Ⅱ

●環境文化科目
ライフ・スタイル論Ⅰ・Ⅱ／環境教育論Ⅰ・Ⅱ／環境ジャーナリズム論Ⅰ・Ⅱ／自然教育演習Ⅰ・Ⅱ／ライフ・スタイル論演習Ⅰ・Ⅱ

●専門共通科目
調査演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ／環境実務研修／卒業論文

環境への3つのアプローチコース

環境社会学科では3つのコースを軸として、人間と環境の問題にトータルにアプローチする。環境社会コースは環境政策の計画と運営を行政機関・NGO(非政府組織)・NPO(非営利団体)などの取り組みから具体的に研究する。環境マネジメントコースは国際規格ISO14001による環境マネジメントシステムの実践的ノウハウとその個人的取り組みとしての環境家計簿などについて学ぶ。環境文化コースでは環境問題の根本にある人の文化に対する見直しと新たな提案をおこなうために、さまざまな事例と提言を実践的に学ぶ。

環境を見つめる現場フィールドワーク

環境社会学科では多様な体験学習プログラムが準備されている。「調査演習」は、さまざまな環境問題の現場に長期間にわたって関わり、現地の人々と交流し、調査・研究を行うプログラムである。3年次の夏休みを利用して2週間程度、民間企業や自治体、環境NGOなどでかける「環境実務研修」は、いわゆるインターンシップである。実際の環境活動にたずさわりながら研修をおこなう。また、現在、人文学科で実施している海外フィールドワーク・プログラムは環境社会学科との共通プログラムとなり、海外において環境の現場を体験する。

環境社会学を生きる道進路

今日、日常生活のあらゆる領域において重要性を増す環境問題。単に科学技術の課題としてだけでなく、文化や社会の問題として理解し、解決に向けて実践的に取り組むことのできる人材こそが要請されている。そのため地方自治体(行政)・企業・NGOなど、多様な活躍の場が待っていると考えられる。具体的には自治体や企業での地位計画プランナー、環境マネジメント業務、環境監査関連業務、環境カウンセラー、自然指導員、森林インストラクターなどがある。また、環境関係の各種の資格取得についても準備中である。

●環境社会科目
環境政策論Ⅰ・Ⅱ／環境NGO論Ⅰ・Ⅱ／地域計画論Ⅰ・Ⅱ／環境NGO演習Ⅰ・Ⅱ／地域計画演習Ⅰ・Ⅱ

●環境マネジメント科目
環境マネジメントⅠ・Ⅱ／環境監査Ⅰ・Ⅱ／製品環境評価／環境家計簿／環境マネジメント演習Ⅰ・Ⅱ／環境監査演習Ⅰ・Ⅱ

●環境文化科目
ライフ・スタイル論Ⅰ・Ⅱ／環境教育論Ⅰ・Ⅱ／環境ジャーナリズム論Ⅰ・Ⅱ／自然教育演習Ⅰ・Ⅱ／ライフ・スタイル論演習Ⅰ・Ⅱ

●専門共通科目
調査演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ／環境実務研修／卒業論文

Department of Environmental and Social Studies

人文学部 環境社会学科 教員紹介

環境社会学科では現場を重視する。教員にも行政・企業・研究所・博物館などさまざまなフィールドを経験した人々が集っている。環境社会学科では彼らの持つフィールドが大きな財産となる。

2000年就任予定者

京都市環境保全部環境管理課係長
板倉豊

自然に親しむ方法を
知りつくす

京都大学大学院工学研究科修士課程修了。京都市役所衛生局・環境局勤務。1991年にJICAよりナイジェリアに環境庁技術顧問として派遣され、環境問題のアドバイザーを務める。長年にわたり青少年に向けた自然観察教室に携わる。

担当予定科目:
環境教育論、自然教育演習 他

(有)ジャパンデバック代表取締役
黒澤正一
企業と個人が
進んで環境問題に取組む
システムを考える

早稲田大学法学部卒業。半導体メーカーに勤務の後、(有)ジャパンデバックを設立。環境ISO・環境マネジメントシステムの構築支援コンサルタント業務などをおこなう。環境審査機関の審査員も務める。

担当予定科目:
環境法規、環境マネジメント 他

奈良産業大学法学部教授
井上有一

人間の問題を
エコロジーの立場から
さぐる

ブリティッシュ・コロンビア大学大学院、ビクトリア大学大学院などで環境計画学、環境論などを修める。エコロジー思想やエコロジー運動について、北米をはじめ国際的な観点で研究している。

担当予定科目:
ライフスタイル論、調査演習 他

京都精華大学非常勤講師
松尾真
新たな枠組みで
環境と政治の関係を
読み解く

京都精華大学大学院人文学研究科修士課程修了。京都精華大学、仏教大学で非常勤講師を務める。専門は国際関係論。既成の政治学の延長ではなく、まったく新しい枠組みの「環境政治学」の構築をめざす。

担当予定科目:
南北問題、環境NGO論 他

(有)エルム環境研究所取締役研究員
角野有香

身近な視点を
出発点に
環境問題を考える

京都大学大学院理学研究科修士課程中退。(有)エルム環境研究所を設立。ごみの分別収集や減量化、リサイクルなどについてのコンサルティングや予測業務をおこなう。

担当予定科目:
社会統計学、製品環境評価 他

明石林崎漁協企画室長
鷲尾圭司
現場に
裏打ちされた
食文化への視点

京都大学大学院農学研究科水産学専攻修士課程修了。環境問題も含めた地域の食文化の再生に実践的に取り組んできた。瀬戸内海の生態、環境問題、食や漁業などの地域文化について研究している。

担当予定科目:
風土と民俗、公害史 他

琵琶湖博物館総括学芸員
嘉田由紀子

人間の生活と水
そのかわりから
環境問題を見つめる

京都大学大学院農学研究科修士課程修了。琵琶湖周辺の水と人の関わり方の環境史、水域資源管理の比較文化論などが研究テーマ。アフリカなど海外湖沼との比較研究にも取り組んでいる。

担当予定科目:
環境社会学、地域計画演習 他

人文学科からの異動教員

小椋純一

●専門教育科目担当
環境社会基礎 京都の景観論
自然景観論 自然教育演習
日本の地域研究演習

江口英子

●教養科目担当
日本語 英語

樋田 劭

●専門教育科目担当
環境社会基礎 環境思想概論
ライフスタイル論演習
総合演習

梶井弥寿子

●教養科目担当
英語

山田 國 廣

●専門教育科目担当
環境社会基礎 環境アセスメント
環境マネジメント
環境マネジメント演習 他

楠瀬佳子

●教養科目担当
英語

リチャード・タンター

●専門教育科目担当
環境と国際関係 調査演習
総合演習

栗 巢 満

●教養科目担当
スポーツ演習

マンガ学科

マンガが巨大メディアになった現在、その文化への影響は多岐にわたる。ストーリーとカートゥーンからなるマンガ学科では制作の現場に立ち会い、想像力と表現力を手に入れる。

表現力と独創性を目指して

現代文化としてのマンガ

マンガが現代文化において重要な位置にあることを、もはや誰も否定できないだろう。紙媒体はもちろん、アニメーション、ゲーム、様々なキャラクターグッズまで、大きくマンガとしてとらえることができる。マンガ学科では、一コマ漫画やイラストレーション、長編ストーリーマンガだけでなく、その関連領域すべてを対象とする。また、そのことによって、既存のマンガ表現の枠にとどまらない新たなマンガの表現形態が生まれる可能性もある。

日本で初めてのマンガ学科では、現代文化としてのマンガを総合的にあつかっていく。

想像力と表現力

マンガ学科では絵画技法、脚本や編集などの技術を身につけることで表現力を学ぶ。また、実際の制作をおこなううえで必要となる発想を豊かにする想像力を養うこともおこなう。

「デッサン」「デザイン」「絵画技法」の講義で徹底した絵画力を養う。そしてコンピュータグラフィックス制作、アニメーション制作、映像作品・ゲームソフト等について学び様々な表現技術の習得を目指す。また、作品批評やマンガの歴史、現代マンガの社会構造における位置などを「マンガ史概論」「風刺芸術論」「メディア史」「比較マンガ概論」といった講義からマンガを客観的視点から総合的に理解する。

実践を通じた教育

マンガ学科の授業は徹底して実践的に行われる。基本的にマンツーマンの指導で、ひとりひとりの実力に合わせて実習を進める。「デッサン」や「絵画技法」などで基礎を身につけ、「制作実習」で作品をつくる。ジャンル別の演習もあり、アイデアを練る「風刺画演習」や、シナリオをつくる「脚本演習」などの授業もある。さらに一冊の本にまとめる「編集演習」もある。

また、教員は、第一線で活躍するマンガ家、編集者、批評家。大学で現場のプロセスを経験するだけでなく、実際に研修に出かけていくインターンプログラムも充実している。

カートゥーンとストーリー 2つのコース

マンガ学科では、多様化したマンガを総合的に扱うために、「ストーリーマンガ」と「カートゥーンマンガ」の二つのコースを設けている。

ストーリーマンガコースではストーリーマンガに必要な物語とコマ、表情と線描、絵画と言葉について学習する。

カートゥーンマンガ・コースでは、1枚、あるいは少数の画面のなかでコンパクトに表現するカリカチュアや、絵画性の高いイラストレーション等の制作に関わる理論と実技を徹底する。

プロの現場でできる体験プログラム

マンガ学科では大学の枠を超えてプロの仕事に触れる様々な体験プログラムが用意されている。マンガ家アシスタント・出版社マンガ誌編集部・アニメ制作プロダクション・ゲームソフト開発企業などでの実務作業を現場でおこなうインターンシップ・プログラム。それは学生個々の専攻や自分の将来を見つけるためにも、実社会の仕事を通じて得られる貴重な体験となる。

また、学内外のプロの作家や評論家、異分野の芸術家等による作品講評会により外部の視点で批評し、自作品をプレゼンテーションする能力の開発もあわせて養成する。

拡大するマンガの可能性 進路

マンガとアニメーションなどの関連産業は、国内のみならず海外もふくめ巨大なマーケットを形成している。日本初のマンガ学科で専門教育を受けた人材の活躍の場は幅広いものとなる。具体的には以下のような仕事が想定される。「ストーリーマンガ・コース」では、マンガ家、マンガ編集者、アニメーター、ゲームソフトデザイナー、キャラクターデザイナー、フィギア作家、など。また「カートゥーンマンガ・コース」では、マンガ家、デザイナーやイラストレーター、絵本作家、編集スタッフ、レイアウトアーティスト等の職種が考えられる。

カリキュラム

卒業には124単位が必要で、内訳は教養科目28単位、専門科目80単位、自由選択科目16単位である。

1年次は基礎的な絵画力・表現力を修得。CGの基礎についても学べる。2年次はコースに対応した演習科目などで必要な表現を学び、知識との連動をめざす。3年次は作品の完成度を高めるために演習科目を中心に専門的能力のレベルアップをはかり、最終年次に各自が自由な卒業制作を完成させることを目標とする。

また、マンガの歴史やその社会的意味を学ぶ講義科目も履修する。

●専門講義科目
マンガ史概論/風刺画論/脚本概論/編集概論/メディア史/現代メディア文化論/現代マンガ論/比較マンガ論/作品批評

●共通専門実技科目
デッサン/デザイン/絵画技法/制作実習/CG基礎演習/CG演習/アニメーション演習/現代メディア文化論演習/マンガ制作実務演習/自由制作/批評演習/卒業制作

●ストーリーマンガ専門科目
脚本演習/編集演習

●カートゥーンマンガ専門科目
イラストレーション演習/風刺画演習

教員紹介

日本初の学科となる芸術学部マンガ学科では、これまでのマンガ分野の教員に、新たに一線で活躍中の作家・編集者・研究者が加わる。居ながらにして現場のプロセスを経験できる機会が用意されている。

2000年就任予定者

韓国・国立スンチョン大学漫画芸術学科非常勤講師

高慶日

韓国のマンガ界で多数の賞を受賞する若手マンガ作家

京都精華大学美術学部マンガ分野卒業、美術研究科デザイン専攻修了。

韓国で大学を卒業後、京都精華大学でマンガを学ぶ。大学院修了後、韓国にもどり祥明大学、国立スンチョン大学などで講師を務める。一方、「ハンギョレ新聞」「ニュースピーブル」などに連載を持ち、マスメディアでも活躍している。韓国「国民日報マンガ大賞」グランプリ(1999年)を受賞している。

担当予定科目:
CG基礎演習
制作実習

マンガ家

竹宮恵子

「風と木の詩」などで幅広い支持を集める人気作家

徳島大学在学中に「りんごの罪」でマンガ家としてデビューする。1980年『地球(テラ)へ…』『風と木の詩』で小学館漫画賞を受賞。常にマンガ表現の新しい可能性を開拓し続けており、日本のマンガ史を語る上では欠かせない存在となっている。「イスアローン伝説」「私を月まで連れてって!」「ファラオの墓」など多数の作品がある。

担当予定科目:
脚本概論、制作実習
マンガ制作実務演習 他

小学館「ブチフラワー」編集長

山本順也

日本のマンガ文化に草創期から関わる編集者

日本大学芸術学部映画学科卒業。小学館に入社後、「少女コミック」「週刊少年サンデー」「ビッグコミックオリジナル」「ブチフラワー」などの創刊、編集に携わる。とりわけ、少女マンガの新境地を切り開いた、萩尾望都や竹宮恵子ら「24年組」と呼ばれるマンガ家たちを発掘・育成したことで知られる。

担当予定科目:
編集概論、マンガ制作実務演習
批評演習 他

マンガ評論家

マシュー・ソーン

日本のマンガ文化を世界的視野から見る

コロンビア大学人類学部文化人類学科博士課程修了。コロンビア大学人類学部文化人類学科講師を経て京都精華大学人文学部講師へ。マンガ評論、マンガ研究のほか、萩尾望都「11人いる!」宮崎駿「風の谷のナウシカ」など多数のマンガを英訳する。読者から見たマンガの意味論が現在の研究テーマ。専門は文化人類学、カルチュラルスタディーズなど。

担当予定科目:
現代マンガ論
マンガ史概論
現代メディア文化論演習 他

マンガ分野からの異動教員

牧野圭一

●ストーリーマンガ・コース
絵画技法
制作実習

王前謙

●カートゥーンマンガ・コース
デザイン
風刺画演習
自由制作

五田京子

●カートゥーンマンガ・コース
風刺画演習
制作実習

ヨシトミヤスオ

●カートゥーンマンガ・コース
風刺画論
デッサン
批評演習

環境社会学科入試概要

環境社会学科では「公募制推薦入試」「一般Ⅰ期入試」「一般Ⅱ期入試」「自由選抜入試」の4つの種別の入試がおこなわれる。

「公募制推薦入試」は論文試験。提示される資料をもとに論文を作成する。個性的な発想と論理的思考力が問われる。

「一般Ⅰ期入試」「一般Ⅱ期入試」には論文だけで受験する論文方式と学科で受ける2科目選択方式の2種類がある。2科目選択方式では、文系・理系どちらのコースに所属しているも受験できるよう、科目選択の幅が広がっている。

環境社会学科 2000 年度入試日程

試験種別	出願期間	試験日	試験科目	試験会場
公募制推薦入試	12月27日(月)～1月11日(火)	1月16日(日)	論文	本学
一般Ⅰ期入試	1月17日(月)～2月1日(火)	2月12日(土)	2科目選択方式・論文方式	本学・地方
一般Ⅱ期入試	2月14日(月)～2月28日(月)	3月7日(火)	2科目選択方式・論文方式	本学

試験種別	出願期間	一次審査合格通知	2次審査	試験会場
自由選抜入試	12月27日(月)～1月11日(火)	1月20日(木)	1月26日(水)	本学

- 募集定員 150名。内訳は推薦で全体の約30%、一般Ⅰ期で約50%、一般Ⅱ期で約20%の割合。
- 公募制推薦入試 受験資格は現役生のみで評定平均は問わない。また、他大学との併願も可能。
- 地方試験会場 一般Ⅰ期入試の地方試験は東京・金沢・名古屋・大阪・広島・高松・福岡にておこなう。
- 2科目選択方式 英語・国語から1科目、日本史・世界史・現代社会・数学・生物・化学から1科目の計2科目。ただし、国語は現代国語、日本史は明治以降、世界史は近現代史、数学は数学Ⅰ・数学Ⅱから出題される。
- 併願 2科目選択方式と論文方式は併願することができる。2科目選択方式は午前中、論文方式は午後試験をおこなう。一般入試の場合、人文学科試験日の翌日が環境社会学科の試験日なので学科間の併願も可能。
- 自由選抜入試 一次審査を志望理由書と推薦書などによる書類審査で、二次審査を30分程度の面接でおこなう。

マンガ学科入試概要

マンガ学科の入試は「公募制推薦入試」「一般Ⅰ期入試」と「一般Ⅱ期入試」の3種類があり、受験者の特性に適した試験形式を選ぶことができる。今回はじめておこなわれるストーリーマンガ・コースでは、次のように試験によって着目点が変わっている。「公募制推薦入試」はストーリー・作画・構成が平均してできること。「一般Ⅰ期入試」は魅力的なキャラクターを創りだすことができること。「一般Ⅱ期入試」はストーリー展開の力がポイントとなり、学科科目も必要である。異なる試験スタイルが多様な能力を持つ学生を引き込み、マンガに関連する幅広い分野をカバー

マンガ学科 2000 年度入試日程

試験種別	出願期間	試験日	試験科目
公募制推薦入試(カートゥーン)	12月27日(月)～1月11日(火)	1月16日(日)	人物デッサン・面接(専攻分野別適性検査)
公募制推薦入試(ストーリー)	12月27日(月)～1月11日(火)	1月16日(日)	ストーリーマンガ実作(専攻分野別適性検査)
一般Ⅰ期入試(カートゥーン)	1月11日(火)～1月25日(火)	2月4日(金)	人物デッサン(実技A)・イメージ表現(実技B)
一般Ⅰ期入試(ストーリー)	1月11日(火)～1月25日(火)	2月5日(土)	デッサン(実技A)・キャラクター展開(実技B)
一般Ⅱ期入試(カートゥーン)	2月10日(木)～2月23日(水)	3月2日(木)	人物デッサン(専攻分野別試験)・英語・国語
一般Ⅱ期入試(ストーリー)	2月10日(木)～2月23日(水)	3月3日(金)	ストーリーマンガ制作(専攻分野別試験)・英語・国語

- 募集定員 カートゥーンマンガ・コースが20名、ストーリーマンガ・コースが30名。内訳は推薦で全体の約50%、一般Ⅰ期で35%、一般Ⅱ期で15%の割合。
- 公募制推薦入試 受験資格は現役生、1浪までで、評定平均が3.5以上。また、他大学との併願も可能。
- 試験会場 すべての試験は京都精華大学でおこなう。地方試験はおこなわれない。
- 試験時間 試験時間は公募制推薦入試の専攻分野別適性検査が180分(カートゥーンマンガ・コースには加えて面接がある)。一般入試の実技科目が180分、学科科目試験が1科目60分。
- 併願 カートゥーンマンガ・コースとストーリーマンガ・コースの併願は一般入試では日程が異なるので可能。ただし、願書提出の段階で志望順位の確定が必要なため両コースともに合格することはない。
- コース変更 入学後のコース変更は認められない。願書提出の際にその点を考慮の上、コースの選択を。

Department of Environmental and Humanities

またペーパー試験にはあられない日常の活動を評価する「自由選抜入試」も実施される。環境NGOなど環境問題に関する活動実績のある人を対象とした入試。選考は書類審査と面接でおこなわれる。多様な入試形式で、受験生が各自の適性に応じて受験できるようにしている。

それぞれの種類の入試はもちろん、一般入試の2方式でも併願が可能となっている。人文学科との併願もでき、受験機会は広がっている。

新しくなった人文学科の人間と文化を探索する3コース

環境社会学科の開設にともなって、人文学科のコースも新しく変わる。人文学科の目的は、「世界・社会・文化・人間」という「わたし」を取り巻くものの中から疑問と問題を発見すること、その疑問・問題を「わたし」の課題として捉え、課題の解決に向けて、「わたし」の判断ができる力をつけることである。その糸口をつかむために、新しい人文学科で

「地域」「行動」「表現」の3つの視点を用意する。3つの視点を駆使して「世界・社会・文化・人間」の多様なあり方を探索する。その探索の旅は、人と出会うこと・社会に触れること・メディアに接触することになるだろう。現代は問題を発見し、その解決方法を見出し行動する個人が望まれている。そんな「わたし」を人文学科は育む場となる。

地域文化コース

— 地域・歴史・芸術 —

地域文化コースは、地域との関わりを切り口に文化を研究する科目群である。おもに日本、海外の歴史・考古学・風土について学び、文化の背景にひそむ地域の歴史や民衆の生活を明らかにする。美術、伝統芸能、民族音楽などもその対象となる。民族・宗教・経済の地域間格差による対立が顕著になっている現代世界においてこそ、わたしたちは、その地域の文化を謙虚に理解するために、その由来を歴史・思想・文化の多面的な視点から再認識しなければならない。そこではじめて文化の多様性に気づき、共感が獲得される。

現代社会の抱える諸問題にこたえていくための、リアルな思考と感性をつちかっ

行動文化コース

— 思想・社会 —

様々な価値が揺らぐ現在、必要なことは、自分の判断基準を持ち、柔軟に現実と関われるしなやかな発想を身につけることである。行動文化コースでは、日本と海外の思想、教育問題・社会問題・女性と男性の生き方・文化と人間との関係などについて学ぶ。単に講義を聞くだけではない。「行動文化」という名称が示す通り、個々が問題とする領域に関わる現場取材する場合もある。現場を訪ね人と出会い、個々が「行動」することで見えてくる課題を持ち帰り、深める。これらの作業を通して、行動力と分析力が身につくことを期待される。現実とかわり、問題を発見し、「行動」力で解決する力を社会は求めている。社会が「行動文化コース」で培った力を試す場となる。

表現文化コース

— 言語・文学・芸術 —

わたしたちは、記されたものを通してある人が創造した考え方・感じ方を理解することができる。それは時の社会環境や時代を理解することにもつながる。言語について学ぶことは、その言語で表現されたものと言語を発する人間そのものを学ぶことである。表現文化コースでは、文学作品など、言語で表現されたものを中心に学ぶ。また、言葉そのものの仕組みを言語学などを鍵にしてとらえる。さらに、言語以外の表現手段である芸術を学ぶことで表現に関する視野を広める。社会活動・経済活動もコミュニケーションが基本にある。企業・家庭・地域活動の中で、表現コースで培ったコミュニケーション能力が活かされることとなる。

School of Design 新たな表現を目指してVCD再編

デザイン・ワークや映像表現が多様化するなかで、時代の要請にこたえるためにVCD専攻も再編成される。名称が「コミュニケーションデザイン専攻(CD)」と改められ、「ビジュアルコミュニケーションデザイン・コース(VCD)」「プロダクトコミュニケーションデザイン・コース(PCD)」が設けられる。VCDは視覚的な造形表現としての「情報」を

追求する。PCDは「物」「空間」「情報」から成立する生活環境を総合的にデザインの立場から研究する。

また、映像デザインクラスが独立し「映像専攻」となる。電子メディアを用いた映像表現を中心に、新しいデジタル映像時代のクリエイターである映像デザイナーやメディア・アーティストの育成を目指す。

VCD コース

— CD 専攻 —

20世紀のデザインは大量生産・大量消費を前提としたものであった。しかし、21世紀は個と個の結びつきのデザインが重要になると予想される。コミュニケーションに根ざして、それをいかに形作るかということがキーとなる。VCDの基本となるのはグラフィック・デザインである。しかし、電子メディアやネットワークの発達などメディアが多様化する中でグラフィック・デザインも多様な表現の世界に踏み出している。VCDでは様々な技法を学びながら、グラフィック・デザイナーにとって必要な創造性やメディアの理解、的確な表現を習得する。情報の視覚的伝達を目的としたデザインの研究・習得を目指す。そのため、3年次より専門領域に特化した技術と表現を学ぶ。

PCD コース

— CD 専攻 —

人は暮らしが豊かになると、個人を取り巻く物・空間・情報という社会環境ををより求めるようになる。自己表現欲の高まりの中で、新しい生活環境の提案をおこなうことにデザインの役目がある。

PCDはコミュニケーションを軸に有機的・総合的にデザインの立場から物・空間・情報を研究する。PCDでは物をデザインする「プロダクトデザイン」と情報をデザインする「ビジュアルデザイン」を中心としたデザインジャンルを融合することで、ジャンルわけのできない実生活を捉えたカリキュラムが構成されている。平面デザインと立体デザインを横断的に学ぶことによりデザインの現場が求める多元的、多面的傾向に対応できる能力の育成を図る。

映像専攻

80年代以降のコンピュータを中心としたメディアテクノロジーの急速な発展によって、映画・テレビ・ビデオなどの「映像の世界」は大きな変化を遂げている。特に、電子メディアの急速な発展と共に「映像デザイン領域」の教育・研究の充実が社会的要請となってきた。

映像専攻は、歴史的発展を踏まえながら様々な映像メディアを中心にメディア・デザイン、メディア・アートについて技術と表現法を学び、映像デザイナー、メディアクリエイターの育成を目指す。また国際的に、「メディアアートとしての新しい映像芸術」の可能性の探求が行われているが、映像専攻は映像テクノロジーとアートの融合した芸術形式であるこの領域も教育研究の対象となる。

1998年度決算及び1999年度予算報告

1998(平成10)年度資金収支決算書
1998(平成10)年4月1日から
1999(平成11)年3月31日まで (単位:千円)

収入の部	
科目	金額
学生納付金収入	4,184,131
手数料収入	230,744
寄付金収入	61,188
補助金収入	387,356
資産運用収入	93,488
資産売却収入	1,267,637
事業収入	7,016
雑収入	24,550
借入金収入	0
前受金収入	890,608
その他の収入	200,024
資金収入調整勘定	△1,166,632
前年度繰越支払資金	1,786,383
収入の部合計	7,966,493
支出の部	
科目	金額
人件費支出	1,933,180
教育研究経費支出	848,830
管理経費支出	489,966
借入金等利息支出	143,488
借入金等返済支出	478,160
施設関係支出	119,150
設備関係支出	137,873
資産運用支出	384,550
その他の支出	130,349
資金支出調整勘定	△78,876
次年度繰越支払資金	3,379,523
支出の部合計	7,966,493

1998(平成10)年度消費収支決算書
1998(平成10)年4月1日から
1999(平成11)年3月31日まで (単位:千円)

消費収入の部	
科目	金額
学生納付金	4,184,131
手数料	230,744
寄付金	64,863
補助金	387,356
資産運用収入	93,488
資産売却差額	320
事業収入	7,016
雑収入	24,550
帰属収入合計	4,992,468
基本金組入額合計	△686,852
消費収入の部合計	4,305,616
消費支出の部	
科目	金額
人件費	1,941,390
教育研究経費	1,316,285
管理経費	545,582
借入金等利息	143,488
資産処分差額	111,272
徴収不能額	7,589
消費支出の部合計	4,065,606
当年度消費収支差額	240,010
前年度繰越消費収支差額	△1,032,723
翌年度繰越消費支出差額	△792,713

1999(平成11)年度資金収支予算書
1999(平成11)年4月1日から
2000(平成12)年3月31日まで (単位:千円)

収入の部	
科目	金額
学生納付金収入	4,235,191
手数料収入	211,700
寄付金収入	20,000
補助金収入	285,300
資産運用収入	64,500
資産売却収入	1,000,000
事業収入	6,000
雑収入	32,900
借入金収入	630,000
前受金収入	788,000
その他の収入	110,540
資金収入調整勘定	△940,609
前年度繰越支払資金	3,379,523
収入の部合計	9,823,045
支出の部	
科目	金額
人件費	2,018,000
教育研究経費支出	901,099
管理経費支出	456,881
借入金等利息支出	140,000
借入金等返済支出	468,160
施設関係支出	1,233,000
設備関係支出	369,105
資産運用支出	1,000,000
その他の支出	133,509
予備費	50,000
資金支出調整勘定	△78,000
次年度繰越支払資金	3,131,291
支出の部合計	9,823,045

98年度の帰属収入は、約50億円でした。このうち学生納付金は84%を占めています。寄付金は6千万円を超える額をいただくことができました。

この中から、建物、機器備品、図書などに対して施設関係支出他約7億円を基本金に組み入れました。人件費その他の経常経費は約41億円となり、単年度では2億円余の黒字、98年度末の累積消費収支差額は8億円の支出超過となりました。

99年度は、新学科設置等にともない美術実習棟の建替え工事を予定しており、このために単年度で7億円余の赤字となります。しかし、新学科等が開設される2000年度以降、学生数を増加させて帰属収入を増やし、累積消費収支差額を解消させてゆく計画です。

貸借対照表

1999(平成11)年3月31日現在 (単位:千円)

資産の部				負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減	科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	16,906,891	18,098,135	△1,191,244	固定負債	3,664,936	4,124,887	△459,951
有形固定資産	15,196,603	15,484,168	△287,565	長期借入金	3,091,660	3,559,820	△468,160
土地	3,895,340	3,895,340	0	退職給与引当金	573,276	565,067	8,209
建物	8,524,334	8,720,249	△195,915	流動負債	1,537,240	1,750,579	△213,339
構築物	861,724	937,277	△75,553	短期借入金	468,160	478,160	△10,000
教育研究用機器備品	1,125,780	1,206,325	△80,545	未払金	78,509	60,260	18,249
その他の機器備品	79,595	72,436	7,159	前受金	890,609	1,119,166	△228,557
図書	690,565	646,759	43,806	預り金	99,962	92,993	6,969
車輛	4,265	5,782	△1,517	負債の部合計	5,202,176	5,875,466	△673,290
建設仮勘定	15,000	0	15,000	基本金の部			
その他の固定資産	1,710,288	2,613,967	△903,679	科目	本年度末	前年度末	増減
電話加入権	3,566	3,371	195	第1号基本金	15,538,299	14,884,447	653,852
有価証券	659,209	1,966,603	△1,307,394	第2号基本金	0	0	0
長期貸付金	324,761	324,791	△30	第3号基本金	150,000	150,000	0
退職給与引当特定資産	572,752	169,202	403,550	第4号基本金	271,000	238,000	33,000
第3号基本金引当資産	150,000	150,000	0	基本金の部合計	15,959,299	15,272,447	686,852
流動資産	3,461,872	2,017,055	1,444,817	消費収支差額の部			
現金預金	3,379,522	1,786,382	1,593,140	科目	本年度末	前年度末	増減
未収入金	51,507	147,892	△96,385	翌年度繰越消費収支差額	△792,712	△1,032,723	240,011
短期貸付金	1,197	668	529	消費収支差額の部合計	△792,712	△1,032,723	240,011
有価証券	2,419	87,317	△84,898	科目	本年度末	前年度末	増減
保証金	5,194	35	5,159	負債の部、基本金の部及び			
立替金	6,598	10,212	△3,614	消費収支差額の部合計	20,368,763	20,115,190	253,573
前払金	8,000	367	7,633				
仮払金	7,435	4,182	3,253				
資産の部合計	20,368,763	20,115,190	253,573				

京都精華大学 2000年度入試日程(人文学部・造形学部・デザイン学部)

人文学部

試験種別	出願期間	試験日	試験会場	発表	手続締切
一般Ⅰ期	1月17日(月)	2月11日(金)	本学 地方	2月21日(月)	3月3日(金)
	2月1日(火)				
一般Ⅱ期	2月14日(月)	3月6日(月)	本学	3月14日(火)	3月23日(木)
	2月26日(月)				

美術学部

試験種別	出願期間	試験日	試験会場	発表	手続締切
一般Ⅰ期	1月11日(火)	2月2日(水)	本学	2月14日(月)	2月28日(月)
	1月25日(火)				
一般Ⅱ期	2月10日(木)	3月1日(水)	本学	3月13日(月)	3月23日(木)
	2月23日(水)				

環境社会学科、マンガ学科の入試日程はP6にあります。資料請求は入試広報課まで、フリーダイヤル0120-075-017

木野通信第32号
1999年12月25日発行

京都精華大学

京都精華大学 情報館 文化情報課 〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137 TEL 075-702-5343